

闊達な検証、洞察を

安倍晋三元首相が奈良市で選挙演説中に銃撃され、亡くなってから 1 週間。その 2 日後に参院選があり、自民党が大勝した。この衝撃的な事件と参院選の結果をどう考えたらいいか。毎日 13 日夕刊、表題の青木理「理の眼」に同感することが多いので紹介したい。

選挙演説中の安倍晋三元首相が突如銃撃され、命を落とすという衝撃的事件について、現時点で記しておくべきこと、記しておかねばならないことをいくつか。

報じられる容疑者の供述等をみる限り、今回の事件を政治テロと捉えるべきかは議論が分かれるでしょう。ただ、元首相が白昼殺害された事件のあまりの重大性は、結果的にテロと同じ意味と効果を社会にもたらしかねません。

そしてテロの語源はラテン語の「恐怖」。それは時に暴力の連鎖を生み、時に社会を深刻な萎縮状態に追い込み、闊達な言論や民主政治を窒息させてしまうのです。

だからまずは政治やメディアが決して萎縮せず、語るべきを語り、事件の背景を徹底的に洞察し、明らかにすべきことを明らかにすること。結果として事件の要因等につながる事実や課題、問題点などが浮かび上がったなら、それと真摯に向き合って改善を図ること。

一方で人の死は一ましてその死が衝撃的であればあるほど、すべてをなぎ倒して世を一色に染めてしまう力を持ちます。あらゆるものが美化され、批判や異論は封殺され、問題を問題として指摘することすら困難になってしまう。

まして今回の事件で命を落としたのは、この国の最高権力者を長く務めた元首相。その痛ましい死を深く悼みつつ、しかしその政権の政策や政治姿勢、あるいは政権下で起きた問題の数々は別のものとして、今後も一層の検証、批評を加えていくこと。それを封じる風潮には断固あらがうこと。

と同時に、衝撃的な死を政治利用するような動きには警戒の眼を注ぐこと。現首相は 11 日、参院選を受けて与党総裁として記者会見した際、元首相の「思いを受け継ぎ」「憲法改正などに取り組んでいく」と述べたとか。いや、それはあくまでも政治家としての元首相の「思い」に過ぎず、国の枠組みであり公権力の行使者を縛る憲法を感傷的理由で改めてはならないのです。

にしても、容疑者は調べに対し、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)に家庭を破壊された恨みが動機だと供述しているとか。それが事件を容認する理由には 1 ミもならないのはもちろんにせよ、この国の戦後保守政界と同教会の歴史的関係等々を思えば、事件には政治テロとはまた別の意味と背景が付与されます。これもまた闊達な検証と洞察が必要な課題でしょう。

(2022 年 7 月 15 日)